



**万能感** (ばんのうかん)

~21世紀を生きる~



## 「万能感」とは

- 乳幼児は泣くことで母親を操作する。失敗も挫折も知らない幼児は、この世の中で自分が一番であり、自分に出ないことはないと思っている。これを心理学では**万能感**(なんでもできる)と言う。



# なぜ今「万能感」なのか

- 本来成長とともに圧縮され、抑制されるべき「万能感」が、過保護や甘やかしによってそのまま残ってしまうことによって起こっている出来事・現象
  - 多発する異常な犯罪
  - 「きれる」「むかつく」などの最近の子どもたち特有の心理(行動)
  - 幼児虐待や育児困難





## 躰(しつけ)の問題か？

- 思い通りに行かない時に感じるストレス
- 理解できないときに感じるストレス
- 知らないときに感じる敗北感
- 失敗したときに味わう自己嫌悪感



## 躰(しつけ)の問題か？

- 思い通りに行かない時に感じるストレス
- 理解できないときに感じるストレス
- 知らないときに感じる敗北感
- 失敗したときに味わう自己嫌悪感



万能感シンドローム





# 万能感に冒された時代

- 何でもできる時代
  - 原子力、宇宙開発、バイオテクノロジー、遺伝子操作、病気の治療、等々
- 何でも知りうる時代
  - テレビ、ラジオ、インターネットなどを利用して、世界中の情報をリアルタイムで獲得
- 何でも手に入る時代
  - 金さえあれば手に入らないものはない



# 万能を目指した歴史

- エデンの園

蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」

＜創世記3:4-5＞

- バベルの塔

彼らは、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしよう」と言った。＜創世記11:4＞





# 見せかけ万能社会の末路

- 自然破壊
- 家族の崩壊
- 若者の無気力化
- 道徳的倫理的乱れ
- 増え続ける心の病
- 異常な犯罪





# 見せかけ万能社会の末路

- 自然破壊
- 家族の崩壊
- 若者の無気力化
- 道徳的倫理的乱れ
- 増え続ける心の病
- 異常な犯罪



The  
Terrible  
Twos

(手に負えない  
2歳児！)



## 万能感への警告

その日には、人間の高ぶる目は低くされ、傲慢な者は卑しめられ、主はただひとり、高く上げられる。

<イザヤ書2章11節>





## 万能感からの解放

- 「幼児期に欲望を抑えるしつけを受けない子は一生不幸である」<カント／哲学者>
- 「子どもを最も不幸にする確実な方法は、幼児期に何でも手に入ることを訓練づけることである」<ルソー／思想家・教育者>
- 「断念の術さえ身につけば、人生は結構楽しいものだ」<フロイト／心理学者>



## 全能なる方に頼る

それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。

<2コリント12: 10 >